

いのちを守る政治を



コロナの最前線でたたかう医師

谷川 智行

たにがわ 
ともゆき

新型コロナの影響で、命と暮らし、営業が深刻な危機に直面しています。

私はこの間、党東京都委員会新型コロナウイルス対策本部長として様々な現場に足を運び、リアルな実態と要望を政治に届け、PCR検査の拡充、暮らしと営業への補償など、政治を動かす仕事に力を尽くしてきました。商店街やライブハウス、町工場の方から「中間の店が次々に閉めていく」「大田のモノづくりが消えてしまう」「自己責任と言われてももう限界。助けてほしい」など悲鳴があがっています。

医療現場では、人手も物資も足りず、私もゴミ袋を被って診療しました。「保健所に電話が繋がらない」「発熱患者さんの受け入れ病院が見つからない」など、命が脅かされる事態が広がりました。

保健所も都立病院も減らして命を危機にさらし、度重なる消費税増税で暮らしや営業を壊した自民党政権を転換し、命と暮らしを守る政治を実現したい。そのために、ぜひとも私を国政で働かせてください。

谷川 智行



9月29日、町工場で状況を聞く谷川智行(左)

日本共産党

大田民報 2020年秋号 発行 大田民報社
大田区池上2-18-4 川上方
日本共産党大田地区委員会の見解を紹介します。

衆議院東京4区(比例重複) 党都委員会副委員長・コロナ対策本部長

【プロフィール】'71年長崎県大村市生まれ。国立香川大学医学部卒、1年生の時に日本共産党に入党。大田病院や大森中診療所等で診療。区内保育園の園医を務める。原爆症認定訴訟、水俣病検診、福島原発事故被害者健診、年越し派遣村、被災地支援(東日本・熊本など)に参加。街頭相談会、路上生活者の支援に継続して取り組む。